

15. 環境影響評価準備書と補正前の  
環境影響評価書との相違の概要



## 15. 環境影響評価準備書と補正前の環境影響評価書との相違の概要

評価書作成にあたり、準備書記載事項を変更あるいは修正した主な事項は表 15-1 (1)～(3) に示すとおりである。また、変更の主な経緯及び理由としては、①～④に示すとおりである。

- ①準備書に対する愛知県知事意見及び住民等の意見への対応
- ②準備書に対する愛知県環境影響評価審査会での委員意見等への対応
- ③説明の補足等
- ④主務省令第34条第2項に基づく本章の追加

表 15-1 (1) 評価書作成にあたっての準備書記載事項との相違の概要

変更した項目	ページ	準備書での記載事項 (《 》は記載箇所を示す)	評価書での記載事項
第2章 対象事業の目的及び内容			
2.3.	2-7	《表 2.3-1 環境影響評価において想定する1日当たり発着回数》	「注1) コロナ禍による航空機発着回数の減少の影響が少なく、中部国際空港における年間発着回数が過去最多となった2019年度を対象として想定した。2019年度の発着回数(約11.3万回/年)のうち、回転翼機(ヘリコプター)を除いた回数(約11.2万回/年)を対象とした。」に修正
第4章 中部国際空港が推進している環境対策			
4.4	4-16～18	—	項目の追記 《(6) 鳥種ごとのバードストライク対策》
	4-29	《表 4.4-1 太陽光発電システムによる年度別GPUでの電力使用量》	データの時点更新
	4-33	《7. 旅客ターミナルビル等のLED化》	「令和6年(2024年)3月末時点で空港全体の約70%がLED式」に時点更新
	4-37	—	図の追加 《図 4.4-24 空港カーボン認証(ACA)レベル4 認定書と贈呈式の様子》
	4-43	—	項目の追記 《4.5.3. 家庭から排出される廃食用油をSAF(持続可能な航空燃料)に循環させる取組》
	4-44	—	項目の追記 《4.5.4. 航空会社と連携して進めるサーキュラーエコノミーの取組》
	4-49	《4.6.2. 中部国際空港脱炭素化推進協議会》	「令和6年(2024年)5月までに計5回開催されている。」に時点更新
	4-50～51	《4.6.4. 地域社会との協働》	タイトルを「(1) 「セントレアと愛知の漁民の森」植林活動(木曾川流域)」 「(2) 「セントレアと大野町のSDGsの森づくり」植林活動(揖斐川流域)」に修正
	4-52	—	項目の追記 《(3) 「セントレアと郡上市のSDGsの森づくり」植林活動(長良川流域)》

表 15-2 (2) 評価書作成にあたっての準備書記載事項との相違の概要

変更した項目	ページ	準備書での記載事項 《 》は記載箇所を示す)	評価書での記載事項
4.4	4-53	—	項目の追記 《(4) ACI アジアパシフィック「Green Airports Recognition 2024」にてシルバーを受賞》
第5章 第一種事業に係る計画段階配慮事項に関する調査、予測及び評価の結果			
5.3.	5-17	《図 5.3-4 中部国際空港におけるバードストライク発生状況（飛行区分別・高度別）平成27年（2015年）～令和元年（2019年）》	グラフの修正
第7章 対象事業実施区域及びその周囲の概況			
7.2.	7-165	《表 7.2-33 (1) 水質汚濁防止法に基づく排水基準（有害物質による排出水の汚染状態）》	「六価クロム 0.5mg/L」から「六価クロム 0.2mg/L」に更新
第10章 調査結果の概要並びに予測及び評価の結果			
10.1. 予測の前提			
10.1.1.	10.1.1-8～10	《図 10.1.1 4(1)～(3) 段階施工計画図段階施工計画図》	図面内に走行経路を追記
10.1.2.	10.1.2-11	《(4) 飛行経路》	本文末に「また、事業実施後の夜間については、大規模補修を実施する間、代替滑走路で離着陸を行うことを想定した。」を追記
10.2. 大気質			
10.2.1.	10.2.1-22～23	《表 10.2.1-17 (1)～(2) 予測対象時期の建設機械及び燃料消費量》	「定格出力(kW)」の値を追記
10.2.2.	10.2.2-24	《(ア) 予測対象時期及び予測交通量》	本文中に「過去の工事で使用した資材等運搬車両の走行経路を踏まえている」旨を追記
10.2.2.	10.2.2-25	《表 10.2.2-21 予測に用いた排出係数》	縦断勾配補正を行った値及び注意書きを追記
10.2.3.	10.2.3-22	《表 10.2.3-16 APU の大気汚染物質日排出量（現況・事業実施後）》	「注 2) 窒素酸化物及び浮遊粒子状物質の排出原単位は、「平成8年度 環境庁委託調査 航空機排出大気汚染物質削減手法検討調査報告書」（平成9年3月、株式会社三菱総合研究所）をもとに以下のとおり設定した。」に修正 排出源単位の設定表に浮遊粒子状物質排出係数の値を追記
10.2.4.	10.2.4-8	《表 10.2.4-5 予測に用いた排出係数》	縦断勾配補正を行った値及び注意書きを追記
10.2.6.	10.2.6-10	《(ア) 予測対象時期及び予測交通量》	本文中に「過去の工事で使用した資材等運搬車両の走行経路を踏まえている」旨を追記
10.3 騒音			
10.3.1.	10.3.1-10	《表 10.3.1-7 予測対象時期の建設機械、音響パワーレベル及び稼働台数》	出典資料2)「建設工事騒音の予測モデル（ASJ CN-Model 2007）」（平成20年4月、(社)日本音響学会）を削除し、出典番号を繰り上げ
10.3.2.	10.3.2-8	《(ウ) 自動車走行騒音のパワーレベル式》	縦断勾配による自動車走行騒音のパワーレベル $L_{WA}$ についての説明と数式を追記
	10.3.2-10	《(ア) 予測対象時期及び予測交通量》	本文中に「過去の工事で使用した資材等運搬車両の走行経路を踏まえている」旨を追記
	10.3.2-11	《表 10.3.2-9 予測に用いた交通量》	資材等運搬車両交通量の値を修正

表 15-3 (3) 評価書作成にあたっての準備書記載事項との相違の概要

変更した項目	ページ	準備書での記載事項 《 》は記載箇所を示す)	評価書での記載事項
10.5 振動			
10.5.1.	10.5.1-8	《ア) 予測対象時期及び予測交通量》	本文中に「過去の工事で使用した資材等運搬車両の走行経路を踏まえている」旨を追記
	10.5.1-9	《表 10.5.1-9(1) 予測に用いた交通量(日交通量)》	資材等運搬車両交通量の値を修正
10.6 水質			
10.6.1.	10.6.1-12	《4) 予測結果》	豪雨が予報される場合の対応方針を追記
10.7 動物(陸生動物(鳥類))			
10.7.1.	10.7.1-49	《表 10.7-16 予測概要》	「予測手法」に既存資料等に基づき定性的に予測する方法を追記
		《表 10.7-17 予測の内容》	「予測の基本的な手法」に既存資料等に基づき定性的に予測する方法を追記
	10.7.1-50	《(イ) 滑走路位置の変化の影響》	「(イ) 予測の結果」に変更
		《ア) 定点調査での確認種》	「ア) 航空機との鳥衝突(バードストライク)の発生要因の検討」に変更 過去の航空機との鳥衝突(バードストライク)の発生記録に基づくバードストライク発生要因の検討結果を追記
	10.7.1-51	《図 10.7-11 (3) 現滑走路及び延長線上を通過した飛翔高度の縦断分布図》	グラフの修正
	10.7.1-53~57	《(イ) 重要な種》	「(イ) 重要な種の生態的特徴等による予測」に変更 過去に航空機との鳥衝突(バードストライク)記録がある重要な種(4種)の予測結果を追記
第13章 総合評価			
13.1	13-15	《表 13-14 環境影響評価の一覧(造成等の施工による一時的な影響に伴う土砂による水の濁り)》	「予測結果」について「10.6 水質」の記載に対応した内容に修正
	13-16	《表 13-15 環境影響評価の一覧(航空機の運航に係る陸生動物(鳥類))》	「予測結果」について「10.7 動物(陸生動物(鳥類))」の記載に対応した内容に修正
参考資料 1. 機材別・時間帯別発着回数			
1.5.	参 1-46	—	「1.5 運行機材」の項に「想定した主な運航機材」の表を追記 (本編の表 10.1.2-1 の再掲)

